

ASIAGAP の 2028 年終了と JGAP(+SA) への一本化について
—JGAP への集中による GAP 普及の一層の加速化を目指して—

2025 年 4 月 22 日

5 月 8 日、6 月 26 日一部改定

平素より GAP の普及についてご尽力頂いていることに厚く御礼申し上げます。

ASIAGAP 認証農場の皆様および関係者の皆様に、2028 年での ASIAGAP の終了と JGAP への一本化についてお知らせします。これは今後の GAP 普及の取り組みを JGAP に集中することにより、GAP 普及の一層の加速化を図ることが目的です。

食品安全に特化した GFSI の承認を受けている ASIAGAP は、プレミアムな認証制度として認識されてきたものの農業の実情からの乖離が進む GFSI の要求による数々の制限により、その普及が停滞しています。このため、昨今の農業の認証制度の主流が持続可能性に移ってきていることを踏まえ、食品安全と持続可能性が適度に両立している JGAP、そして JGAP+SA (Sustainable Agriculture) に、日本 GAP 協会の活動を集中します。

これまでレベルの高い ASIAGAP に取り組んできた認証農場各位に深い敬意を表するとともに、新たな GAP 普及のステージに立つための日本 GAP 協会の今回の決断について、ご理解を頂きますようお願いいたします。また、皆様が円滑に JGAP に移行できるよう、移行ガイドの作成など対応に最善を尽くします。オンラインによる説明会も開催致します。

詳細は以下の説明を御覧下さい。

1. 日本 GAP 協会は次の理由により、ASIAGAP の GFSI 承認を返上することとしました。

- ① ASIAGAP が承認を受けている GFSI の要求は農業の実情からの乖離が進んでおり、農場に種々の困難を強いています。例えば、完全非通知の審査があげられます。何の予告もなく農場に審査員が赴いて審査を行うため担当者不在のケースや、対応できても審査の水準が低くなるなど、信頼できる農場を見極めるための GAP 認証において、このような要求は本末転倒です。また、農産物へのロゴの貼付も禁止されています。
これらの背景にあるのは、食品安全に特化した活動を行っている GFSI の主たる対象が食品加工分野であり、農業分野にも承認範囲を広げているものの、その関心が低いことによるものと思われます。さらに 2024 年末に GFSI の要求事項が改定され、ASIAGAP では審査員の半数が資格を失うと見込まれるような内容を含む更なる要求内容のエスカレートにより、認証制度としての継続も困難な状況となりました。

このため、米国の GFSI 承認の GAP の一つである EFI (Equitable Food Initiative) も、本年 2 月に GFSI 承認の返上を決定しています。また、海外の大手食品事業者も GFSI 承認を農産物に求めなくなってきており、これが世界の最新の流れです。

- ② GFSI 承認を得た農産物の認証を限定的に求めている食品事業者は、日本国内ではないことに加え世界でも少なく、GFSI の承認が今後も農業の国際規格の主流とはなり得ないと日本 GAP 協会は判断しました。GFSI は食品安全のみを対象としていますが、昨今の世界の潮流は「農業の持続可能性」への対応で、例えば SAI Platform が重視する環境や人権の要素を含むものが主流であり、農業においては国ごと作物ごとに多種多様な認証制度が運用されています。
- 食品安全については日本の農業・流通関係者が作成した JGAP のレベルで必要十分であり、それ以外の GAP 項目である環境・労働安全・人権と福祉についても、国際的な潮流を見極めつつ他の国際規格との連携を深めていきたいと考えています。ちなみに JGAP に対する食品事業者からの支持は高まりをみせており、それを反映した 2024 年の JGAP 青果物の認証農場数は 17%増加しています。

2. ASIAGAP の終了に向けた運用と GFSI 承認との関係について

JGAP に GFSI の要求事項を上乗せした上位規格として運用されてきた ASIAGAP は GFSI 承認の返上によりその存在意義を失うことから、2028 年に運用を終了することといたしました。従いまして、ASIAGAP 認証農場各位におかれては、JGAP2022 または JGAP2022 + SA への移行を計画的に進めて頂きますようお願いいたします。

- ◎ 現在皆様が取得している ASIAGAP の認証は、認証書に書かれた有効期限まで、GFSI 承認も含めて有効です。
- ⇒ 次回の更新審査または維持審査において、JGAP2022(または JGAP2022+SA)の審査を受け、JGAP 認証に移行して頂きますようお願いいたします。

ASIAGAP の GFSI 承認との関係、今後の運用の詳細は次のとおりです。

- ① ASIAGAP の GFSI 承認は、2025 年 6 月 26 日までに取得した認証(新規及び更新)であれば、有効期限まで GFSI 承認が有効な認証書となります。ただし 2025 年 6 月 26 日までに取得した認証であっても、6 月 27 日以降の維持審査時における施設の追加、団体の構成農場の追加などにより認証書を再発行した場合には GFSI 承認は無効となるのでご注意ください。
- ② 2025 年 6 月 27 日以降が認証日となる ASIAGAP 認証書については、ASIAGAP の第三者認証としては引き続き有効な認証書となりますが、GFSI 承認の認証ではないこととなります。

※ GFSI 承認を絶対要件とする取引先がある場合は、日本 GAP 協会にご相談ください。

- ③ 現在の ASIAGAP 認証農場の皆様には、次回または次々回の審査において JGAP または JGAP+SA への移行をお願いします。移行への取り組みが負担なく実現できるよう、ASIAGAP から JGAP2022 への移行ガイド及び ASIAGAP と JGAP2022 の対比表を作成しました。これを参考にして JGAP2022 への移行を進めて頂くようお願いいたします。なお、JGAP は管理点の数が ASIAGAP の 7 割程度であり審査時間も短いこと、非通知審査が無いこと、ロゴが使えることなど、負担の減少や利点が多くあります。
- ④ +SA の審査申し込みについては、次回の審査を予定している認証機関にお問い合わせください。
- ⑤ ASIAGAP の新規・更新審査の受付は本年(2025 年)12 月末までの申し込みをもって終了とします(審査は 2026 年 3 月末までの実施となります)。なお、2028 年の ASIAGAP 終了時点まで ASIAGAP の認証を保持したい場合は、2025 年 12 月末までに ASIAGAP の更新審査をお申し込み下さい(有効期限にかかわらず前倒しで審査を受けて頂くことが可能です)。

ASIAGAP 認証農場の皆様におかれては、JGAP の上位となる国際規格であることにご評価を頂き、これまで難しい認証に取り組んでこられたことに深い敬意を表します。しかしながら GFSI と農業の認証制度をめぐる現状は上記の通りであり、特定のプレミアムな認証制度として一部からの認知はあるものの、今以上に ASIAGAP への支持が広がる見通しはありません。このため日本 GAP 協会としては JGAP に資源を集中し、より良い基準の開発、食品事業者からの一層の支持の拡大、消費者の認知度の拡大に向けて取り組みます。ASIAGAP 認証農場の皆様におかれては、GAP への深い経験を持つトップランナーとして、これからも GAP 普及の先頭に立って頂きますようお願いいたします。

3. これからの JGAP の開発方針と普及について

- ① 農業の食品安全については、農業の実態をふまえた現実的で効果が高い JGAP 基準が必要十分なものです。具体的には食品安全に加え、世界の潮流である「農業の持続可能性」を国際的にも上位のレベルで維持していきます。既に JGAP2022 は国際的に展開する複数の食品事業者から採用されており、そのレベルに達しています。
- ② 2024 年 11 月にスタートした新たな付加基準「+SA」は、JGAP または ASIAGAP との組み合わせにより、SAI Platform(本部:スイス)が運営する評価制度である FSA (Farm Sustainability Assessment)とベンチマーキングを行い、承認されています。この FSA は 70 以上の世界中の農業に関する認証制度や法制度とのベンチマーキングを行い、持続可能な農業の基準として多数の企業、国から広く活用されています。このよ

うな国際的な持続可能な農業の流れも押さえつつ、JGAPに加えJGAP+SAの普及に力を入れていきます。

- ③ 日本の農林水産省は、JGAPを国際水準GAPとして認めており、台湾・タイ・シンガポール・香港などの東南アジアの主要バイヤーも活用しています。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会や大阪・関西万博でも食材調達基準としてJGAPは採用されています。JGAP単独でも十分に国際的にトップクラスのレベルにあり、この状態を継続していきます。

4. オンライン説明会について

このことについて、認証農場や指導員の皆様と直接対話するオンラインの説明会を以下により開催します。是非ともご参加下さい。質疑の時間を中心としますので、ご意見、ご質問がある方は是非この場をご利用下さい。※メールに記載したグーグルフォームからの参加登録をお願いします。(終了しました)

- ・第1回……4月23日(水) 10:00～
- ・第2回……4月24日(木) 16:00～
- ・第3回……5月1日(木) 14:00～
- ・第4回……5月28日(水) 16:00～

(参考)ASAIGAPのGFSI承認取得の経緯と現在

- ・ GFSI(Global Food Safety Initiative)は、世界の食品事業者を中心に構成される団体であり、その活動のひとつとして、食品安全に関する認証プログラムに対する要求事項を作り、それを満たす認証プログラムの承認を行っています。
- ・ 日本GAP協会は、JGAPにGFSIの要求事項を上乗せした規格となるASIAGAPを策定し、2018年にGFSIからの承認を取得しました。
- ・ しかしながら、上述の通り農業に対する認証制度の主流が持続可能性に傾き、食品安全に特化したGFSI要求が農業の実情からの乖離が進む中、農業に関してはGFSIへの支持が広がっていないのが現状です。

担当者:荻野(全般)、横溝(管理点と適合基準関係)、清水(総合規則関係)

メールアドレス:info@jgap.jp (弊会ウェブサイトの「お問い合わせ」からが便利です)

以上

<5月8日一部改定> P2 2①に維持審査時のGFSI承認の留意事項、P4に第4回説明会について付記

<6月26日一部改定> P2 2①・②のGFSI承認が有効な認証の認証日を6月25日から同26日に修正